

# 大館ふるさとキャリア教育、 新章への挑戦



秋田県大館市教育委員会  
教育監

の ろ けんいち  
野呂 謙一

## はじめに

忠犬ハチ公の故郷である秋田県大館市では、四方を山々に囲まれた「大館盆地」を一つの「学び舎」として、0歳から18歳、その先の人生までを見据えた、「人づくり」の取組を進めている。私たちは、これを「大館ふるさとキャリア教育」と呼んでいる。本稿では、大館盆地で展開されている教育実践の特徴と、その先に描く未来像について紹介する。

## 実践の展開Ⅰ

本市教育の理念は「大館盆地を学び舎に、市民一人一人を先生に」である。地域の「ひと・もの・こと」を最大限に活用し、学校の枠を超えた「学びのコミュニティ」を形成している点に本市の独自性と特徴がある。

### ■ 百花繚乱作戦

「百花繚乱作戦」(写真1)は、その象徴的な取組である。各校が地域の自然、産業、文化、人材と結び付き、ふるさとの魅力を体感させるとともに、「未来社会を切り拓くための資質・能力の育成」を図っている。地域との協働は「社会に開かれた教育課程」を具現化する実践の場であり、近年はSDGs的視点を取り入れることで、課題意識を伴った深い学びへと発展している。

### ■ 子どもハローワーク

地元企業や商店街と連携し、休日や長期休業中に市内の職場やイベントなどで働く体験ができる「職場体験」である(写真2)。学校が関与せず、教育委員会が運営している点や、子どもの主体的な参加による実施形態である点が特徴である。実際の仕事を

通して大人の人生観や職業観に触れることで、子どもたちは社会の一員としての自覚を高めている。

■「キャリア・パスポート」による学びの可視化  
小学校4年生から中学校、さらには高校へとつながる「キャリア・パスポート」により、体験活動やボランティア、地域での学びを記録し、自己の成長や興味の変遷を振り返る仕組みを整えている。

■「子どもサミット」による「まちづくり」  
「未来おおだて市民リーダー」を育成するための組織であり、全小中学校のサミット代表委員が集い、よりよい「まちづくり」のためにできることを協議・実践している。校種を超えた対話に加え、岩手県釜石市での防災研修や意見交流を通して、防災意識とリーダー性も育んでいる。

### ■ 教師ミニミニ体験

将来教員を志す高校生を対象とした「教師ミニミニ体験」は、地域の教育を支える人材育成のための重要な取組である。秋田大学(高大接続センター)が主催し、教育委員会が後援する「高校生教職体験プログラム」として実施している。学校現場での体験を通じて教職への適性を知り、先生への憧れや学習意欲を高めるとともに、将来、地域の教育を支える人材(市民)としての意識を育んでいる。

## 実践の展開Ⅱ

授業におけるコンセプトは「共感的協働的な学び」の実践である。

### ■ 「おおだて型授業」と響学

本市では平成27年に、キャリア教育の視点を踏まえ学力観の見直しを図った。その際、「共感的協働的な学び合い」を重視する「おおだて型授業」を提唱した。授業におけるコンセプトは「共感的協働的な学び」の実践である。

この「共感性協働性」こそ、新たな「学びのコミュニティ」形成のキーワードであり、これからの大館が目指す教育の神髄である。

本市教育の成果は全国学力・学習状況調査の質問調査結果に表れている。令和7年度は小6・中3で自己有用感、共感性、協働性、課題対応力・使命感、社会貢献・変革力、表現、幸福度の肯定的回答が全国平均を上回っている。特に社会貢献の「地域や社会をよくするために何かしてみたいですか」は小6で11ポイント、中3では15・5ポイント上回っている。

## 結びに

大館盆地は閉ざされた器ではない。ここは一つの学び舎であり、多様な教育活動が凝縮された「学びのコミュニティ」である。一人一人の子どもの瞳を輝かせながら活動し、教室や地域、そして学び舎である大館盆地全体に活気ある対話が響き渡る光景を見るたびに、「この地で展開される『大館ふるさとキャリア教育』は、単なる教育手法の改善ではなく、未来を拓く生き方そのものの学び舎である」ということを、私たちは確信している。

「大館盆地に軸足を置いて自分の人生の道筋を考える」という体験を礎として、大館の地で育った子どもたちが、たとえ故郷を離れたとしても、いつか大館盆地での学びを糧に、大館、そして日本や世界を支える「大館人」として羽ばたき、自分の人生をたくましく歩む日が来ることを信じて、私たちはこれからも未来に向かって躍動する「未来おおだて市民」の育成を推進していく。

## さらなる発展への志

「学びのコミュニティ」である大館盆地で展開される大館教育が描き出す未来には、重要なキーワードがある。それが「心震える体験」と「かっこいい大人との出会い」である。

■「心が動く」ことが原動力  
教科書の知識を習得することにとどまらず、地域



写真1 秋田内小学校と地域が取り組んでいる活動。「百花繚乱作戦」では、学校ごとに独自の活動を展開している。

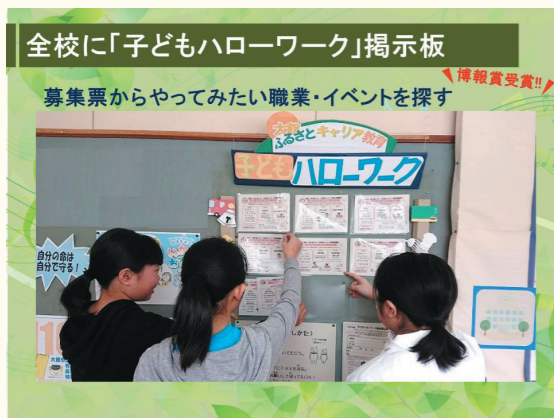


写真2 市内全小中学校に情報が掲示される。体験の記録は「キャリア・パスポート」に蓄積されていく。

として捉えるとき、  
真のキャリア発達が  
促される。

■ 地域を元気にする、  
子どもの「個の力」  
ふるさとキャリア

教育で自信を付けた一人一人の子どもが、地域貢献活動やボランティア活動などで躍動する姿は、大人にも刺激を与える。子どもを受け入れることで、大人が自ら